

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「政府、コンビニ活用し高齢者支援」
- 2) 「大津・滋賀の野菜・特産品マルシェ キッズ野菜ソムリエ任命、食育映画も」
- 3) 「中性脂肪、指置くだけ数秒で測定 画期的試作機」

1) 「政府、コンビニ活用し高齢者支援」

少子高齢化に伴い増加する高齢者の総合支援拠点として、政府がコンビニエンスストアや飲食店などの店舗を活用する仕組みづくりを検討していることが19日、分かった。店舗に介護が必要な高齢者やその家族が利用できるサロンや、健康増進の相談窓口などを併設することなどが柱。支援拠点の情報は市町村ごとに取りまとめ、平成27年度中にホームページなどで情報提供を始め、活用を促す。

支援拠点の名称は「街のワクワク（WACWAC）プレイス」（仮称）。支援拠点として対象としているのは、住民が日常的に頻繁に利用するコンビニや飲食店のほか、スーパーやフィットネスクラブなども想定している。

店舗の一角に専門家が常駐する相談窓口、高齢者やその家族の交流スペースのほか、買い物支援や介護サービス関連の機能なども持たせ、地域の拠点として活用する。

支援拠点の整備を進める背景は、高齢者の増加に伴って膨らむ医療費の抑制や、高齢者の多様なニーズに応える予防・健康管理サービスの拡充が必要との判断がある。

全国で約5万店あるコンビニなど日常的に利用可能な場所で、気軽に健康のための相談ができることは、高齢者にとってもメリットがあり、生活習慣病の改善や医療費の削減にも効果が期待されている。

政府は、6月に閣議決定した新成長戦略で、平成32年までに介護を必要とせず日常的に自立した生活を行える健康寿命を1歳以上伸ばすことや、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の人口を20年度比で25%減少することを掲げている。こうした目標達成に向け、高齢者の健康増進を地域全体でサポートする取り組みを進めることにした。

こうしたことはすでにコンビニが独自で取り組みを始めているが、政府が主導となればより浸透していくのではないかと思う。国民が健康的・活動的に暮らせることが全ての好循環につながると思うので、希望ある未来をつくるためにも発展することを期待したい。

2) 「大津・滋賀の野菜・特産品マルシェ キッズ野菜ソムリエ任命、食育映画も」

大津・滋賀の野菜や特産品を販売するイベント「近江食彩マルシェ」が11月3日、旧大津公会堂で開催される。

同会場を運営するまちづくり大津が主催し、大津市が共催する。出店するのは、主婦による「北比良グループ」、野菜カフェを営む「グリーンキッチン」、自然栽培の「高島ファーム」、音楽を聴かせて育て、土を使わずに水耕栽培する「マノーナファーム」、トマト農家

の鯛崎隆裕さん、JAグリーン近江のほかにも10店以上。在来野菜の近江かぶらや栗原ごぼうの出品も予定する。

当日は、滋賀初の日本野菜ソムリエ協会主催のプロジェクトで、野菜の魅力を楽しく発信する「キッズ野菜ソムリエ」の任命も行われるほか、食の大切さについて考えることを目的にインド映画「スタンリーのお弁当箱」の無料上映会も開かれる。

同協会シニア野菜ソムリエで滋賀で活動する立花尚子さんは「2回目となる今回も『農と観光をつなげる』という大きなテーマはそのまま。公会堂という交流の場を通じて、マルシェ、映画、キッズ野菜ソムリエイベントで1人でも多くの方に食の交流をしていただければ」と来場を呼び掛ける。

キッズ野菜ソムリエなどの子ども向けの認定資格は、子どもが楽しんで知る・学ぶことが出来るきっかけになるとしてもいいと思う。食育がキーワードとして良くでてくるが「キッズ食育インストラクター」という枠も作って、食育を「学ぶ」側ではなく「教える」側に立てるようにすると、友達などに楽しみながら食育を広めることが出来るのではないかと思った。

3) 「中性脂肪、指置くだけ数秒で測定 画期的試作機」

茨城県つくば市の産業技術総合研究所の研究チームが、採血をすることなく、血液中の中性脂肪を測定できる画期的な装置を試作した。

指を置いて数秒で結果を得られるため、生活習慣病を防ぐための食生活改善などに役立ちそうだ。15-17日に横浜市で開かれた国際的な展示会で試作機を披露した。

血液中に含まれる中性脂肪はメタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の診断の際に目安として用いられる。ただ測定には採血が必要で、日常的な計測の障害となっている。同研究所の古川祐光ひろみつ主任研究員と藤巻真研究グループ長らは、人の目では見えない光の一種「近赤外光」に着目した。近赤外光は皮膚を透過するが、通り抜ける際に血液中の中性脂肪を検出できる。ただ、近赤外光を用いたこれまでの装置は感度が低くなる課題があった。

研究チームは近赤外光の量を減らさずに計測する技術を開発し、試作機を完成させた。本体の重さが約3キロ・グラムで、近赤外光が発せられる管の口に指を差し出すとモニターに計測値が表示される。

古川主任研究員は「メタボリックシンドロームや生活習慣病は、自分の数値を知って何を気をつけたらよいのか把握することが効果的だ。1年ほどでメーカーに技術移転できるので、製品化を目指したい」と話している。

飲み過ぎ・食べ過ぎ、不規則な生活を送っていると、身体のことをケアしないとダメだなどは意識するものの結局は年に1回の健康診断で結果を見るまで何もせず...なんていう人も多いと思う。大掛かりな検査をしなくとも、簡単にチェックできるのであればもっと日頃から気を付けられるようになるのではないか。健康増進のために、一般にも早く普及してもらいたい。